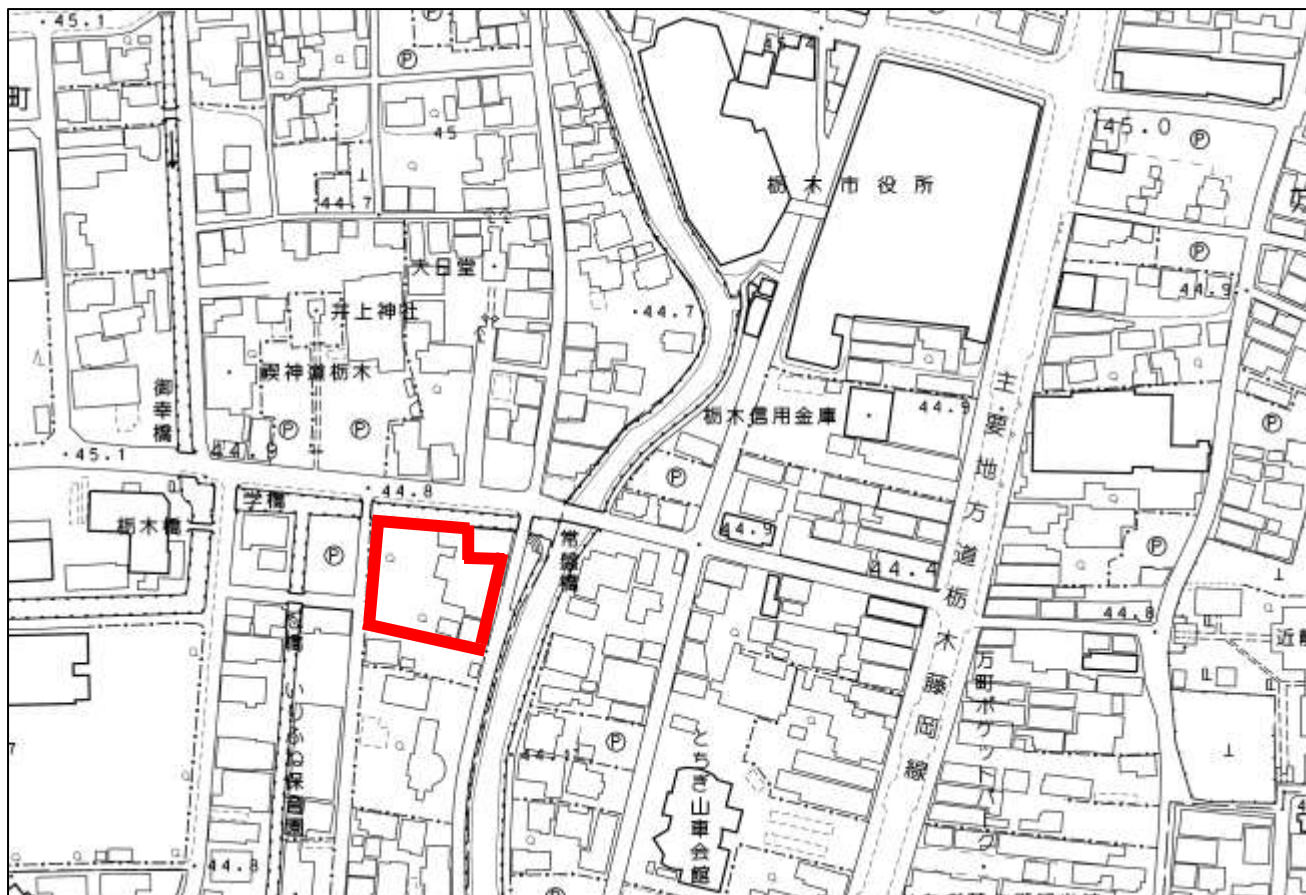


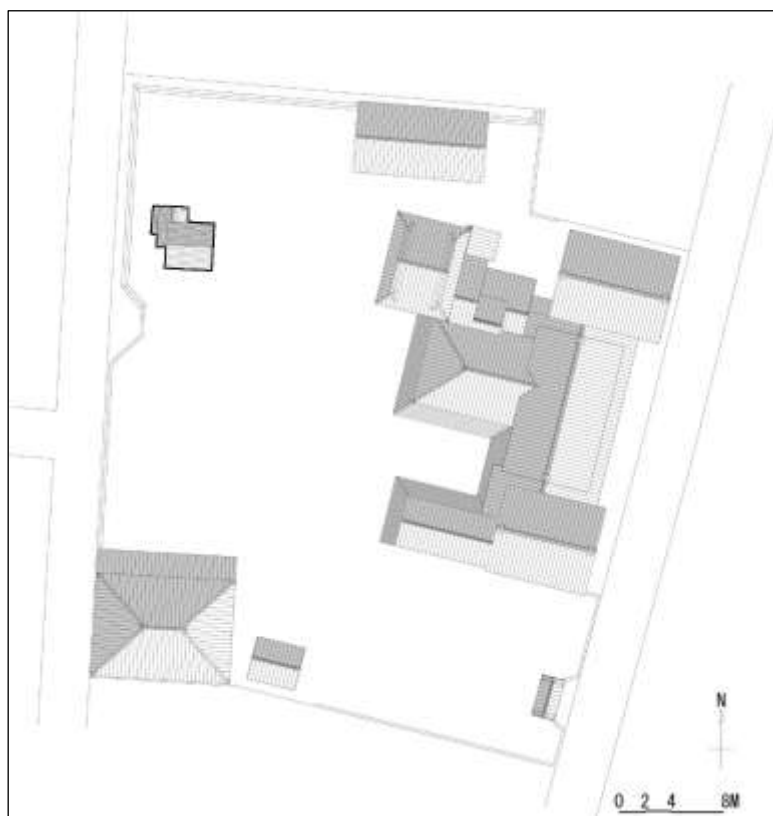
史的風致形成建造物 指定台帳

指定番号	4	名称	横山郷土館離れ
指定年月日	令和2年3月11日	所在地	栃木市入舟町20番地2
所有者氏名	栃木市長 大川秀子	所有者住所	栃木市万町9番25号
建築年代 (根拠)	大正7年(1918)建築 (建築様式)	規模・構造	木造 鉄板葺 平屋建
特徴等	<p>巴波川沿いには、現在でもいくつかの土蔵や石蔵が残り、商業都市として繁栄した当時の面影を偲ばせている。その中でひとときわ堂々とした外観を川面に映しているのが、麻問屋の歴史を紹介する「横山郷土館」である。中央に木造平屋の店舗があり、その両側に隣接して、鹿沼産の深岩石を積んだ石蔵が建つ。向かって左側の文庫蔵が明治43年(1910)、右側の麻蔵が明治42年(1909)の上棟であることが、棟木の墨書により確認でき、どちらにも「横山定助建之」とある。横山定助は、麻糸商や真縄製造を営むかたわら、明治33年(1900)入舟町に横山商事株式会社(金融業)を設立、明治41年(1908)東京市神田区にあった株式会社中橋銀行を買収、入舟町に移転改称のうえ株式会社栃木共立銀行とし、代表者に就任した。栃木でも有数の豪商と知られた人物であり、当初は大通り沿いに店舗を構えていたが、明治後期になって現在地に移った。中央の木造店舗は、左半分が銀行の店舗として、右半分が麻問屋として造られている。</p> <p>このほか敷地内には、店舗に続く木造2階建の住居部分や、大正7年(1918)建築の洋館(離れ)がある。いずれの建物も平成10年(1998)、登録有形文化財に登録されている。財団法人横山郷土館として一般公開されるようになったのは、昭和54年(1979)6月からで、平成27年(2015)に栃木市へと引き継がれた。</p>		
形成する歴史的風致(指定理由)	<p>商家町栃木にみる歴史的風致(物資の集散による問屋業の発展にみる歴史的風致)かつての麻問屋といった問屋業を営んでいた頃の建造物で、物資の集散による問屋業の発展を物語っている。</p>		
備考	登録有形文化財(平成10年(1998)9月2日)		





横山郷土館 案内図



配置図